

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ぼこあぼこ川尻		公表日 令和7年9月30日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		活動内容によって、時間帯を変えて使用している。	成長によって、使用する物（机等）が小さくなってきている
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		個別支援を行う際は、一対一で職員がつく様になっている。	送迎に職員がでる場合、難しい時がある
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	1	カードやボードを使って、一日の流れ（スケジュール）を視覚化している。	賃貸物件の為、バリアフリー化は難しい
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		定期的な換気や消毒を行う。こまめな掃除を行う。	空調の温度管理が、季節によっては難しい
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		カームゾーンの確保をしている。	人数が増えた場合の追加の確保が難しい
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		毎日のミーティングでの情報共有をしている。	長期休暇中は長時間の確保が難しい
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		アンケート調査を実施し、結果を支援内容に反映出来るようにミーティングをしている。	アンケート回収が全て出来ない
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		ミーティングの時間を、毎日設けて情報共有をしている。	長期休暇中は長時間の確保が難しい
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		今後は第三者による外部評価を検討し、評価結果を業務改善に繋げていけるようにする。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		毎月二回研修を実施している。外部の研修にも参加している。	研修後の振り返りの時間を今後は設ける
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		分かりやすく記載されている	公表されている事を知らない保護者様もいる
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		特性を考慮し、個別や集団活動を組み合わせた計画になるようにしている。	下校時間によっては、参加できる時間が限られてくる
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		職員同士での意見交換を行い、その結果を計画に反映させている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		毎日のミーティングとは、別に時間を設ける	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	2	日々の行動観察を含めた様子を記録としてのごしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	1	それぞれに適切な支援の優先順位をつけて、具体的な支援内容を設定している。	今後もガイドラインの項目をよく確認して設定します。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		職員だけでなく、活動の一環として子供たちの意見も聞いて取り入れている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		屋内や屋外、季節にあった活動を取り入れている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		それぞれの発達に応じた課題を見つけ、個別支援計画に反映させていきます。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		毎日取り組んでいる	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		毎日取り組んでいる	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		職員間で共有したことなどを記録に残し、モニタリング等に役立てている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		定期的に行い、支援計画の見直しを行う。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	3	1	ガイドラインに沿った支援を心掛けている。	地域交流に関しては、検討中
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		活動の中で選択・決定が各自出来るものを、取り入れている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		個別支援計画作成者が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		協力医療機関との連携をしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		担任の先生との情報共有や連絡調整を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		関係機関との話し合いや情報共有は可能な限り行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		4		まだ卒業生がでていないため、来ていない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	2	発達検査等を受けられた場合、報告書を保護者様同意のもと共有している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		4		交流する機会は設けてないので、ご要望があれば今後検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4		可能な限り参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		連絡帳だけでなく、送迎時に様子をお伝えし情報共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2		情報共有は行っているが、研修会の実施はしていないので今後検討していきます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に説明を行い、質問があればその場で回答し解消できるようにしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		意向やニーズ、気持ちや意思を尊重した支援計画書を作成し確認を得ている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		放課後等デイサービス計画に基づいた支援内容を説明し、同意を得ています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		必要に応じて面談だけでなく、電話等で迅速に対応しています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		4		交流する機会を設けていく事を検討していく
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		契約時に重要事項説明書の記載を基に、説明をしている。	
42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		書面だけでなく、LINEを活用している。		

非常時等の対応	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報が記載された書類などは、鍵付きのキャビネットにて保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	1	状況に応じた意思疎通・情報伝達を心掛けている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		今後検討していきます。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		委員会を設置、マニュアルを作成し研修や訓練を実施しています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		定期的な避難訓練を実施し、実際に発生した際に迅速に対応出来るよう取り組んでいる。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		契約時にフェイスシートを記入して頂き確認をしています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			現在のところ、該当者なし。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	1	日々の支援の中で、職員間で連携をとり必要な措置を講じている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		契約時に説明をし、同意書をとり同意をとっている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		口頭・書類・連絡ツールで共有している。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		委員会を設置し、指針や規定を整備しマニュアルを作成している。		
54	虐待防止委員会及び身体拘束適正化検討委員会を定期的開催し、その結果について従業者に周知徹底しているか。	4		法人内の研修だけでなく外部の研修にも参加し、周知徹底をしている。		
55	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		契約時に説明し、同意書をとっている。		